



「誕生」
その昔、小東峠を越えて大行沢沿いの道を下ってくる二人の女の旅姿があった。その二人は主人で、連れの女は乳母のようであった。しばらく溪流でのどをうるおしていたが、姫が突然腹痛を訴えた。乳母は持ち合わせの薬がなく、集落へ薬を求めに引き返した。残された姫が気がつくとうと異様な怪人が現れ、姫は気を失った。乳母は急いで戻ったが、その場に姫の姿はなく、呼べども答えはなかった。悔恨の念で足元の滝つぼに身を沈めてしまった。一方姫は全身白銀で覆われた大猿と洞窟の中で奇妙な生活が始

二口峠展望台より磐司を望む

秋保には歴史的背景のある伝説、人々の生活の中から語り継がれている民話が数多く残っています。民話に関するマップは平成26年度から5年にかけて、湯元地区・境野地区・長袋地区・馬場地区（大滝周辺）、そしてこの二口周辺と、地区毎にまとめてきました。民話マップを作成するにあたり、民話発祥の地を訪ねて歩いてみましたが、やはり民話として語り継がれているような風景や場所があり、古き時代へとタイムスリップしていきます。なんとなく心が和み、懐かしくなってきます。私たちがその時代に生活していたら、どんな暮らしだったのでしょうか、わくわくします。どの地域を旅してもこのような場所があると思いますが、四季折々の美しい秋保の景色を眺めながら、パンフレットを片手にゆったり歩いてみませんか？
（街道沿いの民話ゆかりの場所に看板があります。）

秋保の民話の伝承活動として、定期的に民話語りを行います。どうぞお立ち寄りください。

- 場 所 秋保・里センター（観光案内所）
- 活動日 毎月第2、第4日曜日 10時30分～11時30分

いってみっぺ
秋保

二口の民話

企画・発行：秋保地域資源活用委員会・仙台市
連 絡 先：秋保総合支所総務課（022-399-2111）
秋保市民センター（022-399-2316）

掲載されている情報は、平成31年3月現在のものです。



ふた ぐち

二口の民話

往古千年の街道に、語り継がれる物語がある。

自然、歴史、喜び、悲しみ・・・

二口・磐司岩周辺を歩いて巡る、
昔語りの舞台への旅。

訪れてみたい秋保
二口街道ツアー 62

No.21

「矢投坂」
磐次郎・磐三郎の兄弟は父の手ほどきを受け弓矢の達人となり、二口街道を通る人々を脅し、金品を奪う悪行を続けていたんだと。そのとき仏道を広めようと行脚の旅を続けていた慈覚大師円仁は、悪行を働く兄弟に、人道の大切さを昏々と諭した。改心した兄弟は背負っていた弓を投げ棄てたんだそう。その場所は「矢投坂」と呼ばれていたが、今は「柳坂」と呼ばれて伝わっているんだと。

まっていた。やがて、姫と大猿の間には磐次郎・磐三郎の二人の兄弟が生まれたんだと。

いってみっぺ秋保 関連資料

「No.1 二口峠越え」

二口のトレッキングについて詳しく記されています。

磐司磐三郎伝説をもっと知りたい方はこちらも見！

「No.23 磐司磐三郎伝説をたどる」



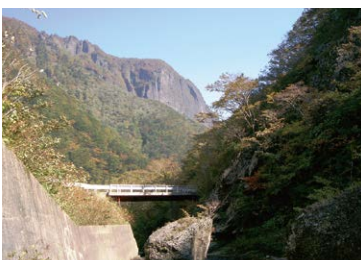
二口峠(山伏峠・清水峠)

二口街道は、二口番所を越えると道が2つに分かれます。右に進むと馬形・山寺へと向かう山伏峠、左に進むと高沢・高瀬へと向かう清水峠があり、これが「二口」と呼ばれる所以です。藩政時代は、仙台と山形を結ぶ最短ルートとして利用されていました。

3.9km
(徒歩120分)

7 風の洞橋

秋保郷における二口街道の最も西にある橋。深山、幽谷ならではの冷涼な風が年間を通して吹いています。しかし、土用の3日間だけは風が止むと伝えられています。



また、古は二口番所へと向かう街道の難所で、馬が橋から落ちたという民話など、行きかう人々の緊張と安堵が想像されますが、東に臨むことのできる西磐司とそれを包む樹林帯の雄大な景観は、今なお変わりがありません。

馬喰(ばくろ)が村人をだまし手に入れた駿馬を引いて二口の奥、風の洞を渡ろうとした。その時、頂上からヒョリヒョリと鳴く声がした。そのとたん、馬が暴れて馬喰は滝壺に落ちてしまし、馬は村に逃げ帰った。以後、里人が磐司岩に竜がいると恐れるようになり、山頂は「竜が峰」と呼ばれるようになった。

民話「風の洞」

上人洞

二口峡谷の大行沢に沿って連立する巨大な岩窟の一つです。昔、狩猟者の緊急避難場所や修験場として使われていた他、磐次郎・磐三郎が誕生した場所と伝えられています。正式な登山道ではなく、歩行はかなり困難なため、ガイドなしで行くことはできません。

大行沢の洞窟から読経の声が聞こえると、旅人の間でうわさになり、村人は上人様が修行しているんだと語り合っていた。年を経たある日、上人様を訪ねてみると、姿はなく、人骨と経文を見つけた村人は、これを手厚く葬ってやたところ、読経の声が聞こえなくなったんだと。

民話「上人洞」



ふた くち

二口周辺の民話発祥の地を歩いて巡る旅！



0.9km (徒歩約15分)

6 柳坂(矢投坂)

その昔、二口街道を山形へと向かう慈覚大師円仁が、二口山塊の狩猟の雄、磐次郎・磐三郎と遭遇した場所がここ「矢投坂」です。磐司岩から風の洞橋方面へ向かう中間地点の坂で、地元ではなまって「やなぎざか」とも呼ばれています。

二人は、この坂道で侵入者である円仁の峠越えを阻止しようとしたものの、逆に円仁の説法に感化し、生業である狩猟をやめることを誓い、持っていた矢を投げたと伝わることから「矢投坂」と言われるようになり、街道を行き来する人々の目印となっています。



0.6km
(徒歩10分)

5 磐司岩展望台

凝灰岩・集塊岩からなる柱状節理の大連壁。大東岳の南側を「裏磐司」、名取川の左岸を「表磐司」、右岸を「日陰磐司」と呼んでいます。中でも表磐司は高さ80～150mの垂直な崖壁が3km以上も連なり壮大な景観です。新緑や紅葉の頃は特に素晴らしい自然美に出会えます。

この岩の名前の由来は、磐次郎・磐三郎の兄弟がこの辺りを拠点にしていたとの伝説からきています。



1.7km
(徒歩30分)

親孝行な姉妹が親亡き後、強欲な伯父に引き取られ、いじめられていた。ある日、羽州の人買に売られていたのを息子の作太郎が見て、助けに行つたが、姉妹は足を滑らせ滝壺に落ちてしまった。作太郎は助けようと飛び込み命を絶つた。姉妹滝や向かいにある男岩は今もこの悲しい物語として語り継がれているんだと。

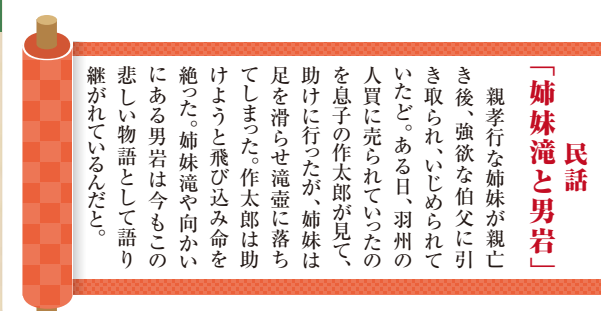
民話「姉妹滝と男岩」

4 姉妹滝(姉滝・妹滝)・男岩



高さ約16mの滝。姉滝は別名「穴滝」とも呼ばれ、甕穴と滝が結合した珍しい滝で昭和9年に国の天然記念物に指定されましたが、昭和20年に崩壊、今はその面影はありません。狭い落ち口から一気に深い滝壺へ落ちる優雅な直瀑は、周りの木々と相まって素晴らしい景観美です。

また男岩は、姉妹滝の北側、大岩を割りながら伸びている石割桜よりもさらに急登した山中にあります。



3 二口キャンプ場

バンガロー12棟と、トイレ・炊事場・テントサイトがあります。登山などの拠点としても利用されています。受付は秋保ビジターセンターで。



1.3km
(徒歩20分)

二口峡谷遊歩道

山道を下り太行沢橋から溪流に沿う自然遊歩道で、上流に進むと姉妹滝もあり溪流の散策を楽しむことができます。(約2km、1時間10分)

2 太行沢・太行沢橋

名取川の支流、裏磐司の峡谷を流れる沢。「行(なめ)」は滑るという意味で、滑りやすい岩床の川底です。本流に匹敵するほどの奥行と、水量があり、川遊びには最適な場所です。四季折々に見せるこの沢の景観は、川底の「滑(ぬめ)」と相まって、特性ある溪谷の様相を見せてくれます。



0.1km
(徒歩2分)

1 秋保ビジターセンター

TEL:022-399-2324

蔵王国定公園・県立自然公園二口峡谷の動物や植物などの豊かな自然と、谷のおりなす美しい景観との出会いの場所の玄関口。周辺の山々の情報、展示などを行っています。



0.6km
(徒歩10分)